

要望演題 | 1-07 カテーテル治療

要望演題3

カテーテル治療

座長:

大月 審一 (岡山大学病院)

小林 俊樹 (埼玉医科大学国際医療センター)

Thu. Jul 16, 2015 11:00 AM - 11:50 AM 第5会場 (1F アポロン A)

I-YB3-01~I-YB3-05

所属正式名称: 大月審一(岡山大学病院 小児循環器科)、小林俊樹(埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科)

[I-YB03-03] 上室性頻拍を合併した成人心房中隔欠損症に対する経皮的心房中隔欠損閉鎖術後の長期経過

○安原 潤, 小林 俊樹, 熊本 崇, 小島 拓朗, 清水 寛之, 葭葉 茂樹, 住友 直方 (埼玉医科大学国際医療センター 小児心臓科)

Keywords: 経皮的心房中隔欠損閉鎖術, 上室性頻拍, カテーテルアブレーション

【背景】成人の心房中隔欠損症 (ASD) では心房細動 (AF) を含む上室性頻拍 (SVT) を合併することが多いが、Amplatzer Septal Occluder (ASO) による経皮的 ASD閉鎖術後の経過はよく知られていない。ASO後は高周波カテーテルアブレーション (RFCA) が困難となるため、当院では発作性心房細動 (PAF) や若年者の慢性心房細動 (CAF) に対して ASO前に RFCAを行なう方針としている。【目的】SVTを合併した成人 ASDに対する ASO後の長期経過について検討すること。【対象と方法】2006年12月から2014年12月までに当院で ASOを実施した SVT合併の成人 ASD20例について後方視的に検討。【結果】年齢は33~77歳 (中央値58歳)。術前の不整脈は PAFが8例、CAFが12例だった。ASO前に RFCAを施行した PAFおよび若年 CAFが7例、RFCA適応外と判断された CAFが10例、RFCAの適応はあるが治療希望がなかったか自己申告がなかったため RFCAを施行しなかった PAFが3例だった。RFCAを施行した7例のうち3例に2度の、1例に3度の RFCAを行い、全例で洞調律に復し AFの再発は認めなかった。3度の RFCAを行った CAFの1例は活動量の増加に伴い心房粗動 (AFL) となり電氣的除細動や抗不整脈薬による治療を継続している。RFCA適応外とされた10例では、全例で ASO後も CAFが持続した。RFCAの適応だが施行しなかった PAF3例では、全例で ASO直後に PAF増悪を認め、抗不整脈薬が開始された。このうち1例は2年後に洞調律に復し PAFは改善した。他の2例では PAF改善を認めず投薬を継続している。【考察】RFCA未施行の PAF症例では、ASO直後に AF増悪を認めるが、遠隔期には改善する症例と改善しない症例を認めた。ASOによる容量負荷軽減に伴い SVTが改善する症例もあるが、術前にその予測をするのは困難だった。【結語】RFCA未施行例における ASO後の SVT長期経過には個人差を認める。RFCAを先行し SVT再発がないことを確認してから ASOを行うという治療方針が望ましい。